

◇現代社会と青年◇

ミス・ワールド・ジャ・パン2020

ファイナリストと接して感じたこと

むろだて いさお
 室館 勲
(株式会社キャリアコンサルティング
 代表取締役社長)



昨年に引き続き、今年もミス・ワールド・ジャ・パン2020のファイナリスト、三十名ほどに対して、二時間の「日本の基礎講座」の講義をおこないました。

ミス・ワールドは世界三大ミスコンテストの中で最も歴史が古く、参加国は最多を誇っています。「目的のある美」をコンセプトに、美に集まる力を活かしてどのように社会貢献していくかを目的に、SDGsなどに取り組んでいます。

国際人として、世界に出て国際交流をしていく上で大切なことは、英語が話せることと同じくらい、自国について話ができることだと考えています。自国のことを語れない国の代表は、世界では一笑に付されて終わりでしよう。

ファイナリストの皆さんには、日本代表として恥をかかないレベルの日本の基礎教養を、「日本の課題」「日本の特徴・強み」という形で伝えました。

日本の課題は、今後の食料問題、エネルギー問題、安全保障、水道事業問題など

です。日本の強みや特徴の話においては、皇室、伊勢神宮、浮世絵やマンガの話、工業製品や技術、台湾統治の話などを伝えました。

皆さん、大変集中して聞いてくれました。事前に、ミス・ワールド・ジャ・パン事務局の森川氏から面白い情報を伺いました。この講義を数日前から皆さん本当に楽しみにしていたそうです。しかし、日本の基礎教養の講義など、硬いイメージがあり、一見退屈そうに見えるのに、不思議だなと思っていました。

実は今年はコロナ禍で、ほとんどのイベントやセミナーが中止かオンラインになってしまい、ファイナリスト同士も顔を合わせる機会がなかったそうです。全体で集まることのできたのは、ファイナリストお披露目の記者会見以来のこと。

世の中の団体は、リスクを考えて、やむを得ずイベントを中止するケースが多いと思います。今回、我々は徹底した感染予防対策の上で、リスクをとってでも開催をしたため、ミス・ワールド・ジャ・パン事務局やファイナリストの皆さんからも直接感謝の言葉を頂きました。

何事もリスクを恐れて、ゼロリスクを追求したら、外出すらできません。その意味では、コロナ禍では通常以上の決断力がリーダーには求められます。

日本を背負って立つ若者には、明るい未来を実現するためにも、コロナ禍におけるリスクヘッジとリスクテイクを学んでほしいと思います。